

ポルトガル月報

2017年11月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政・外交】★コスタ首相、チュニジアを訪問

【経済】★2018年度政府予算案の国会承認

内政・外交

●ソウザ大統領、習国家主席のポルトガル訪問を期待

11月3日、ソウザ大統領はリスボン市内のホテルで開かれたポルトガル・中国間の交流イベントで、習近平国家主席のポルトガル訪問が2018年に実現することを期待していると述べた。

ソウザ大統領は、同訪問を通じて両国関係は「恐らく最良のタイミングを迎える」とした上で、具体的な訪問日程については「通常的外交チャネル」を通じ、間もなく固まることを期待していると語った。

習主席は2014年7月、ブラジル開催のBRICSサミット出席に合わせた中南米訪問からの帰国の際、ポルトガルのアソーレス諸島（テルセイラ島のラージェス空軍基地）に8時間程度立ち寄ったことがある。

●カブリタ内務大臣、キング欧州委員と会談

11月7日、カブリタ内務大臣はキング欧州委員（安全保障同盟担当）とリスボン市内で会談後、共同記者会見で「ポルトガルは世界で最も安全な国の一つであり、欧州の安全保障を強化できる立場にある」と述べた。

キング欧州委員は「ポルトガルは安全保障問題に関し、欧州水準の効率的な情報共有と協力体勢を整えている」と評価した。



【写真】記者会見するキング欧州委員（左）とカブリタ内務大臣（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

●コロンビア大統領、ポルトガルを公式訪問

11月13日、サントス・コロンビア大統領夫妻がポルトガルを公式訪問した。

両国大統領は大統領官邸（ベレン宮殿）で会談し、教育、企業、貿易及び観光等の分野で協力関係を強化することを確認した。ソウザ大統領は共同記者会見で、2016年のノーベル平和賞受賞者であるサントス大統領を「世界平和の構築者」と称えた上で、「両国の友情関係は（コロンビアの）和平プロセスを超えて更に前進する」と述べた。

サントス大統領は、両国関係を「最良」とした上で、本年ポルトガルで発生した山林火災の犠牲者に哀悼の意を表するとともに、和平プロセスへのポルトガルの協力を謝意を示した。同大統領はその後、コスタ首相らと会合した他、リスボン新大学から名誉博士号を授与された。

ソウザ大統領は、2016年10月にキューバを訪問後、コロンビアで開催された第25回イベロアメリカサミットにコスタ首相及びサントス・シルヴァ外相とともに出席した経緯がある。



【写真上】会談する両国大統領（ポルトガル大統領府HPより転載）

●ユーロソルダージェン社の世論調査結果—11月

11月16日、週刊エスプレッソ紙はユーロソルダージェン社が実施した世論調査の結果を発表した。2

017年6月以降の政党別支持率は以下の通り。

【問】本日が選挙日ならばどの政党に投票するか

%	2017年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月
PS	40.0	40.4	40.8	40.3	41.0	40.0
PSD	29.0	28.6	28.1	28.7	28.0	28.4
BE	9.0	8.5	8.4	8.4	9.0	8.7
CDU	7.6	7.8	7.6	7.3	7.5	6.9
CDS	6.9	6.2	6.9	6.8	6.0	6.6
PAN	1.2	1.3	1.1	1.5	1.4	1.7

■調査期間：11月8～15日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者1169人、調査方式：電話帳から固定電話番号を無作為に抽出、回答率：86.4%、統計上の誤差：3.08%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、BE=左翼連合、CDU=統一民主連合（ポルトガル共産党・緑の党）、CDS=民衆党、PAN=人と動物と自然の党

★コスタ首相、チュニジアを訪問

11月20～21日、コスタ首相はチュニジアを公式訪問した。サントス・シルヴァ外務大臣、カブリタ内務大臣、カルデイラ・カブラル経済大臣、カストロ・エンリケスAICEP（ポルトガル貿易振興庁）長官及びファロ・ラモス・カモンイス院長官らが同行した。

コスタ首相は初日の首脳会談後の会見で「ポルトガルはチュニジアのよい隣人であるだけでなく、日増しにより強い友人関係を築き上げている」と述べた上で、ポルトガル人はチュニジアの民主化の成功に大きな敬意を抱いていると称えた。

シャヘド首相は「両国はともに長い独裁政権の時期を過ごしながらも、民主主義体制を確立させることができた」と述べ、両国共通の歴史的な背景を強調した。

両国は今回、①市民保護、②交通、③雇用・人材育成、④高等教育・科学調査の4分野の協力を推進することで合意し、テロの掃討及び予防に向けた安全保障の領域でも協力関係を深めることを確認した。

コスタ首相は翌21日、カイド・エセブシ大統領を表敬し、ポルトガルはチュニジアの民主的な統合プロセスに強い関心を持っているとした上で、地中海地域

の安定化がより重要との認識を示した。

その後、チュニス市内で開かれた経済フォーラムで、コスタ首相は「ポルトガルはチュニジアにとって信頼できるパートナーになるだろう」とした上で、対チュニジア輸出及び投資の拡大、特に再生可能エネルギー、農産品、インフラ、エンジニアリングの各分野で大きなポテンシャルを秘めているとの考えを示した。

【写真】コスタ首相（左）とシャヘド首相（コスタ首相公式ツイッターより転載）



●カーボヴェルデ大統領、ポルトガルを公式訪問

11月23～26日、フォンセカ・カーボヴェルデ大統領がポルトガルを公式訪問した。ソウザ大統領が就任してから2回目のポルトガル訪問（前回は2016年10月）。

フォンセッカ大統領は23日にソウザ大統領と、24日にシルヴェイラCPLP事務総長とそれぞれ会談した。その後コスタ首相主催の昼食会に参加し、午後にはリスボン大学から名誉博士号を授与された。コスタ首相は同日、「両国の友情の絆とパートナー関係を強化する。我々は共通のプロジェクトであるCPLPやカーボヴェルデ・EU間の関係深化について協議することができた」とツイッターに投稿した。

両国大統領は25日、カーボヴェルデ人が多く暮らすリスボン市郊外のコヴァ・ダ・ソウザ地区を訪れ、住民から歓迎を受けた。フォンセカ大統領は、同行メディアに対し、カーボヴェルデ人コミュニティがポルトガルに溶け込んでいると述べた。



【写真】リスボン市内のカーボヴェルデ人コミュニティを訪れた両国大統領（ポルトガル大統領府HPより転載）

●スイス大統領、ポルトガルを公式訪問

11月28日、スイスのロイター大統領がポルトガルを公式訪問した。

ソウザ大統領は共同記者会見で「スイス経済はEUにとって大変重要」と評価した上で、ポルトガルとスイスは「文化的、民主的、多角的な視点を共有し、あらゆる大陸における保護主義に反対している」と述べた。ロイター大統領は、ポルトガルの近年の経済成長は特筆すべきとした上で、両国関係の深化においても「ポテンシャルを秘めている」と語った。

両大統領はその後、リスボン市内の歴史地区を走る路面電車を試乗し、市民や観光客らと交流した。ロイター大統領はこの他、コスタ首相の表敬を受けた。

コスタ首相は同日、ポルトガル中部で本年発生した大規模山林火災に対するスイス政府の支援に謝意を示した上で、「両国はホテル及び観光業、科学調査、再生可能エネルギーの各分野でパートナー関係を深化させていく」とツイッターに投稿した。



【写真】リスボン市内の市電に揺られるロイター大統領(左)とソウザ大統領(ポルトガル大統領府HPより転載)

●「ポ」外務省、北朝鮮弾道ミサイル発射に非難声明

11月29日、ポルトガル外務省は北朝鮮による弾道ミサイル発射を受け、「北朝鮮の体制が違反し続けている数々の国連安保理決議に基づく責務に対する軽視を改めて示し、地域と国際の安全を無責任に危険に陥れる、北朝鮮による大陸間弾道ミサイルの再度の発射を断固として非難する」などと声明を発表した。

●コスタ首相、第5回EU・AU首脳会議に出席

11月29～30日、コスタ首相はコートジボワールの都市アビジャンで開かれた「第5回欧州連合(EU)・アフリカ連合(AU)首脳会議」に出席した。

コスタ首相は30日、「平和と安全保障」と題されたセッションに臨み、「過去の紛争は平和と安全が社会組織の基礎であることを我々に教えてきた。それがなければ発展することはできない」と訴えた。

コスタ首相は本会議に合わせ、ウワタラ・コートジボワール大統領と個別会談した。また、サントス・シルヴァ外相を交え、ロウレンソ・アンゴラ大統領らと

開いた会合については「大変ポジティブだった」とツイッターに投稿した。この他、国連及びEUのミッションでポルトガル軍兵士を派遣している中央アフリカのトゥアデラ大統領などとも会談した。



【写真】第5回EU・AU首脳会議に出席したコスタ首相(同首相の公式ツイッターより転載)

経済

●ヴィトリノ海洋大臣が訪中—投資の呼び込みで

10月28～11月4日、ヴィトリノ海洋大臣はポルトガル中部の主要港シーネスのターミナル拡張等、総額25億ユーロに上る港湾開発プロジェクトに中国資本を呼び込むことを目的に訪中した。海洋経済に関係するポルトガル企業39社の代表者が同行した。

ヴィトリノ大臣は10月31日、北京市内で中国最大手の建設会社「中国交通建設」と「国家開発銀行」から、ポルトガルでのインフラ投資を望んでいる旨説明があったとメディアに述べた。

シーネス港運営責任者のルイス・カシヨ氏は、同港のターミナル拡張プロジェクトについて「本プロジェクトに関心を示している中国人グループと関係を深めているが、他にも例えば欧州や日本などからも関心を寄せられている」と説明した。

今回の訪中で、世界最大級の規模を誇る上海の洋山港を視察したヴィトリノ海洋大臣は、シーネス港のプロジェクトにはインドやパキスタンなどからも関心を寄せられていると付け加えた。

●企画・インフラ大臣、鉄道網の整備計画を説明

11月6日、マルケス企画・インフラ大臣は2018年度政府予算案の国会審議で答弁した際、ポルトガル政府の鉄道投資計画「フェロヴィーア2020」に関し、2018年に約800キロの路線が工事または施工入札の段階に入ると説明した。

同大臣は最初の大型事業として、2018年第1四半期(1-3月期)にも南東部アレンテージョ地方の中心都市エヴォラとスペイン国境に近いエルヴァス市

を結ぶ新線（約90キロ）が着工される見通しと説明した。また、エルヴァス市からスペイン国境までの既存線の刷新工事の入札を2018年初旬に予定しているとした。

ポルトガル政府は、外国資本の呼び込みを図りながらターミナルの拡張等を検討している中部の主要港シネスからスペイン、欧州各国への物流を改善するため、本路線の整備を重要視している。

【写真】国会で答弁するマルケス企画・インフラ大臣
（中央：ポルトガル政府プレスリリースより転載）



●観光担当副大臣、「英EU離脱の影響感じない」

11月6～8日、ロンドンで開催された観光産業の国際見本市「ワールド・トラベル・マーケット」に参加したメンデス・ゴディーニョ観光担当副大臣は、国営通信LUSAに対し、ポルトガルは観光面で「英国のEU離脱の影響を感じていない」と述べた。

同副大臣は「英国人旅行者による消費が増えている」と指摘。本年1～8月期の公式統計によると、対ポルトガル英国人旅行者の宿泊者数は同期比4.4%増となった一方、同消費額は13.6%増と大きな伸びを記録している。

●ウェブ・サミット2017の開催

11月6～9日、リスボン市東部のオリエンテ地区で世界最大級のテクノロジー関連イベント「ウェブ・サミット2017」が開催され、延べ170か国から約6万人超が来場した。グテーレス国連事務総長も会場に駆け付け、世界が直面する課題についてプレゼンテーションを行った。

ポルトガルでの開催は昨年に続いて2回目。本年も多くのIT関連企業が出展し、国内外の政府代表者を交えた様々なイベントやシンポジウムが行われた。

コスタ首相は9日、「グローバル化の課題とリスク」をテーマに行われたパネルディスカッションに参加し、「全ての人にとって有益なグローバル化を実現するには、社会・経済・労働の各政策を新たに必要がある」と主張した。

コスタ首相はまた、本サミットに合わせてポルトガルを訪れたラタス・エストニア首相、アル・ゴア米元副大統領、ブラッド・スミス・マイクロソフト社長兼最高法務責任者（CLO）、ベステアー欧州委員会委員（競争政策担当）らと会談した。

【写真】ウェブ・サミットに参加したコスタ首相（中央：同首相公式ツイッターより転載）



●センターノ財務大臣、財政再建の成果を強調

11月7日、EU財務省会合（ブリュッセル）に出席したセンターノ財務大臣は、「現在のポルトガル経済は最良のファイナンス条件を整えている」と記者会見で述べた。

同大臣はポルトガルの長期金利が2%を下回ったことを強調した上で、「これはポルトガルの財政政策と債務削減に向けた取組みの成果」と述べた。その上で、国際通貨基金（IMF）に対する債務の前払いを約30億ユーロの規模で間もなく行う予定と説明した。

●2017年第3四半期の雇用統計の発表

11月8日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2017年第3四半期の失業率を8.5%（前期比0.3ポイント減、前年同期比19.2%減）と発表した。若年失業率（15～24歳）は24.2%（前期比3.8%減、前年同期比1.9ポイント減）だった。

●2017年第3四半期の実質GDP成長率の発表

11月14日、ポルトガル国立統計院（INE）は2017年第3四半期の実質GDP成長率を前年同期比2.5%増、前期比0.5%増と発表した。

INEによると、前年同期比については投資が減少した一方で、個人消費が伸びたことによる内需の拡大が寄与した。

●中国商務部副部長、ポルトガルを訪問

11月20日、リスボン市内で開かれたセミナー「貿易、投資及び生産能力における協力」（ポルトガル貿易振興庁（AICEP）、マカオ投資貿易振興協会（IPIM）及びマカオフォーラムの共催）に高燕

中国商務部副部長が出席し、ポルトガル・中国間には協力関係を深化させる上で強い相互補完性があると指摘した。その上で「（マカオは）両国関係において、代えがたい橋渡しの役割を担っている。中国は世界により開かれた態度であり続けたいと考えている」などと述べた。

本セミナーに出席したブリリヤンテ・ディアス国際化担当副大臣は「中国は（ポルトガルにとって）不可欠な経済パートナー」とした上で、「我々に短期的な視点はない。中国は長期的な投資パートナーである。ポルトガルにおける中国投資を多様化させることは可能である」との見方を示した。

●観光担当副大臣、中国人観光客の受入れに意欲

11月23日、メンデス・ゴディーニョ観光担当副大臣はマカオで開催された「ポルトガル旅行・観光代理店協会（APAVT：本部リスボン市）」の第43回総会に出席した。

同副大臣は、ポルトガルのホテル業界は中国人観光客の更なる受入れを望んでいるとし、より良いサービスを提供するための施策として、今後、観光業を学ぶマカオの研修生のポルトガルへの受入れを推進する考えを明らかにした。

2017年1－9月期のポルトガルにおける中国人宿泊者数は、前年同期より40%増加。同総会で、コスタ・フェレイラAPAVT会長は、ポルトガルの観光産業は今日、直接・間接的に国内総生産の約2.1%を占めるまで成長し、ポルトガル経済に大きく貢献していると述べた。

★2018年度政府予算案の国会承認

11月27日、2018年度政府予算案が可決した。政権与党・社会党及び同政権に閣外協力している左翼連合、共産党、緑の党、人と動物と自然の党が賛成した一方、野党・社会民主党及び民衆党は反対した。本予算案は今後、ソウザ大統領の裁可を経て、本年中に公布される見通し。

最終採決前の各党審議で、サントス国会担当副大臣は「本予算案はポルトガル国民、政府を支えている政党、及び欧州機関との約束をいずれも果たしている。

野心的かつ厳格、過去の不正義を是正し、現在の歩みを確かなものとしており、将来にも備えている」と強調した。

共産党及び左翼連合は、最終的に本予算案に賛成したものの、社会党を厳しく批判。オリヴェイラ共産党議員は、ポルトガルがEU及びユーロに加盟していることで「政府は自らの手で」財政赤字目標を課しており、結果的に「本予算案はこの国にある現実的な可能性から離れている。全体的に見ても、必要とされていることに全く応えていない」と訴えた。

モルタグア左翼連合議員は、電気料金の消費者負担の軽減策として、同党は以前から再生可能エネルギーの発電事業会社に対する特別負担金を課すよう求め、社会党も同案を予算案に盛り込むことに合意していながらも、最終的に反対に回って同案を退けたことを引き合いに出し、「（社会党は）自身の発言に責任を持つべきだ」と批判した。

来年1月の党大会で代表の座を退くパッソス・コエーリョ社会民主党党首（前首相）は、社会党の政権運営を「コメディであり、馬鹿げている」と批判した。社会民主党は今回、民衆党と合わせて計165本の修正案を提出したが、最終的に承認されたのは民衆党が起案した2本にとどまった。

ソウザ大統領は本予算案の可決後、「（本予算案について）正直なところ不安はなく、むしろ期待している。通常、予算書の編集に10～15日かかるので、本予算案の最終版が手元に届くのは、12月15～17日頃になろうが、これが届き次第、細心の注意と関心を払って検討したい」とメディアに述べた。

コスタ首相は同日、「2018年度政府予算案が承認された。引き続き皆と共に作業を進めていく」とツイッターに投稿した。

（了）